

令和7年度大学・高専機能強化支援事業
（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【高等専門学校】
事業概要

令和7年2月申請時点

1. 基本情報

高専名	久留米工業高等専門学校		
設置区分	国立	学校種	高等専門学校
都道府県	福岡県	事業期間	令和7年度～令和16年度
申請区分	高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員
事業計画名	久留米工業高等専門学校における新時代に活躍する分野横断的高度情報専門人材の育成		

2. 事業概要

理工系専門分野と情報工学の技術に精通した横断的知識をもつ高度情報専門人材の育成を目的とし、既設の情報系学科の学生定員（40名）を30名増員し、数理情報学および情報工学の技術を幅広い産業や社会分野に応用できる能力を育成する情報科学科を定員70名で設置する。 新設学科に制御情報工学コース、数理情報学コース及びマテリアルズインフォマティクスコースを設定することにより、幅広い産業や技術分野に適応できる高度情報専門人材の育成を強化する。 増員する学生を収容する教室と卒業研究用の実験室並びに情報科学科の学生（70名）が一同に受講する実務重視の授業を実施可能な施設を整備し、産学官民金との連携のもと課題解決のための実践的能力を養う機会を創出する。

3. 情報系組織

情報系組織の設置・増員計画（赤字は事業対象組織）

	組織名	入学定員		設置・増員等時期	設置等後の 主な学位分野
		事業開始時	事業終了時		
学科	制御情報工学科	40	0	R 9 募集停止	
	情報科学科	0	70	R 9 設置	工学関係
		0	0		
		0	0		
		0	0		
		0	0		
		0	0		
		0	0		
	計	40	70	増員数	30

高専全体の収容定員に占める情報系組織の収容定員の割合

	学科
増員前（R7.4.1時点）	20.0%
増員後	30.4%
増分	+10.4%

事業計画名

久留米工業高等専門学校における新時代に活躍する分野横断的高度情報専門人材の育成

基本情報	
改組内容	学科・コース等の設置・増員
所在地	福岡県久留米市
増員する情報系組織名	情報科学科
入学定員増数及び増員時期	30名(R9年度)

＜社会や地域のニーズ・課題＞

産業

❖ 「平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備」の調査報告
2030年には先端IT人材が54.5万人不足すると予想

地域

❖ 福岡県内企業アンケートの結果
情報通信分野の9割近くの企業がIT人材の不足を感じている。
情報通信分野以外の企業におけるIT化への最大の課題の55.2%は人材不足である。

会員企業

❖ テクノネット久留米会員企業へのアンケート
「DX人材が不足していると感じますか？」→「はい」70%
「DX推進のために重要と考えているデジタル技術は？」→「IoT」72%、「人工知能」68%、「データサイエンティスト」57%

＜学科等の体制強化の概要・コンセプト・特徴など＞

情報科学科は、豊かな情報化社会の発展に貢献する実践的かつ創造的な高度情報技術者を育成するため、**情報科学**とその基礎となる**数理**、さらに**工学応用に関する専門的素養**を修得する学科である。
従来の**制御情報工学科**(定員40名) **情報科学科**(定員70名)

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得した実践的、創造的制御情報技術者を育成

幅広い産業や技術分野に適應できる高度情報専門人材の育成を強化

制御、情報、ネットワーク、メカトロニクス等を修得し、他の情報科学技術者と協働して工学的な視野から同技術が寄与できる課題を解決する能力を育成

情報学および計算機科学の技術を修得することにより、自然科学の真理からの発想を活かして、同分野の技術が寄与できる課題を解決する能力を育成

材料開発に必要な計算科学、データ解析に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる能力を育成

+

数学、統計学など
DXを主導する基礎原理

物質科学（材料・化学）
DXが著しく発展

＜教育内容・育成する人材像＞	
3 年 制	共通 ディジタル技術を中心として、急速に変化する社会の中で複雑で多様な課題を解決する能力と持続可能な発展に寄与する能力を有し、製品・サービスを提供するためのシステムやソフトウェアの開発・設計・実装・運用を担う人材を育成
	制御情報工学 自身の専門技術を活用して、他の情報科学技術者と協働してモノづくりを行うことができる人材を養成
	数理情報学 数理情報学と計算機工学等の知識を応用して、社会課題を解決できる人材を養成
	マテリアルズインフォマティクス 情報科学の技術を活用し、AIなどを使ったデータの分析・評価により材料開発を担う人材を養成
	❖ 異分野との融合領域における実課題に対処する演習授業を開講する。 ❖ 地域の企業と連携して、学生がチームで協同してシステム開発や問題解決に取り組む機会を提供する。 ❖ 情報処理機器を用いたグループワークや地域企業とのミーティングができ、高度情報化ミーティングルームを提供する。 ❖ 70名の学生がDXに関わる実験や演習ができる数理科学実験室を整備する。

＜初中段階・他大学・高専・企業・自治体等との連携＞

小中学校

❖ 佐賀県と久留米市周辺教育委員会と連携した学生主体の小中学生向け公開講座を開催する。
❖ 特異な才能のある児童・生徒の発掘を見据えた久留米高専ハカセ塾などを実施する。

大学

❖ 久留米大学との学術協定に基づき、情報科学科の教員と学生が共同して、医系学科や文系学科などの異分野の教員と学生と共同研究を実施したり、DXに関する技術支援をし、産学官による地域連携の促進を図る。

自治体

❖ 久留米市との事業協力に関する協定書に基づき、久留米市に対してDXに関する学術的な支援をする。
❖ 教員と学生が共同して情報教育を市民に提供し、産学官による地域連携の促進と市民と高専との交流の促進を図る。

企業

❖ 異分野との融合領域における企業等の実課題に対処する演習授業を開講し、地域の企業と連携して、学生がチームで協同してシステム開発や問題解決に取り組む機会を提供する。
❖ 企業実習（短期インターンシップ）の科目を専門選択科目として実施する。

＜女子学生、社会人学生、留学生等の確保＞

女子学生

❖ 理系女子学生比率の向上のために、女子中学生向けの公開講座を開催する。
❖ 女子中学生向けのPR資料を作成し配布する。
❖ マテリアル（材料・化学）へ興味のある中学生にもアピールする。

留学生

❖ 制御情報工学科では、情報通信ネットワーク工学分野のコンピュータソフトウェアやコンピュータネットワークの専門知識を習得したい留学生を受け入れてきた。情報科学科は、3コース制により専門分野の裾野が広がるため、より多くの留学希望者の関心を惹きつけることができる。

令和6年度

- 定員200名
- ❖ 情報系定員 40名
- ❖ 非情報系定員 160名
- 機械工学科 (40名)
- 電気電子工学科 (40名)
- 生物応用化学科 (40名)
- 材料システム工学科 (40名)
- 制御情報工学科 (40名)

令和9年度

- 定員230名
- ❖ 情報系定員 70名
- ❖ 非情報系定員 160名
- 機械工学科 (40名)
- 電気電子工学科 (40名)
- 生物応用化学科 (40名)
- 材料システム工学科 (40名)
- 情報科学科 (70名)
- マテリアルズインフォマティクスコース (10名)
- 制御情報工学コース (40名)
- 数理情報学コース (20名)

デジタルの基礎原理と応用

- 数学、統計学など
- 物質科学（材料・科学）

連携先

- 小中学校: 公開講座・はかせ塾
- 大学: 医系・文系学科との共同研究と技術支援
- 企業: 地域企業と連携して実課題の問題解決(PBL)
- 自治体: DXに関する学術支援と情報教育の提供